

ICT第5回講座（種なしぶどう（大粒種）摘粒） 資料

令和元年6月25日
長野農業改良普及センター

1 好適樹相の比較

表1 好適樹相の比較

品種	目標房重	目指す樹相	好適樹相（新梢長）		
			開花直前	満開70日後	満開70日以降の新梢管理
無核巨峰	350～400 g	開花までに70～80cm程度に伸長させ、最終的に100～120cm程度にする	80cm程度	100～120cm	遅伸びする新梢は摘心する
ナガノパープル シャインマスカット ピオーネ クイーンニーナ	400～550 g	開花までに一気に90cm程度まで伸長させ、2回の摘心（開花前とベレゾン頃）で150cm程度に抑える	90～100cm	150cm程度（摘心実施後）	遅伸びする新梢は全て摘心し、150cm程度に抑える

クイーンニーナは房重500g以下。収量1,200kg/10a が当面の基準

2 摘粒（ナガノパープルを優先）「ナガノパープルは2回目ジベレリン処理前に仕上げ摘粒」

（1）軸長の調整：摘粒が間に合わなくても軸長の調整は2回目のジベレリン処理前に必ず実施する。

ア 方法

軸長は1回目のジベレリン処理以降、急激に伸びる。（摘粒後も1cm程度の伸びる場合あり。）

方法は2パターンあるので、房の状況によって使い分ける。

- ①切り下げ（上部の支梗を切り落とす）・・・基本
- ②切り上げ（房尻を切り落とす）・・・房尻が貧弱な場合のみ数粒程度切り上げる

イ 時期

シャインマスカット以外は1回目ジベ処理後5日頃から軸長の調整が可能。

シャインマスカットは処理5～6日後に5～6cmで軸長調整可能（山梨果樹試）

（2）品種別基準（2回目ジベレリン処理前の目安。目標房重に合わせて調整する。）

品種	軸長（cm）	段数	粒数（目安）
無核巨峰	6.5	13～14段	30粒
ナガノパープル	7	13段前後	25～30粒
ピオーネ（クイーンニーナ）	6	10～12段	30粒
シャインマスカット	7～8	13～15段	35粒（若木は35～40粒）

（3）摘粒

ア 時期：房や果粒の素性が分かり次第、開始する。摘粒が遅れると果粒肥大に影響する。

無核巨峰、ピオーネ、クイーンニーナ

：1回目ジベ処理5日後～2回目ジベ処理の間

ナガノパープル：1回目ジベ処理7日後～2回目ジベ処理の間

シャインマスカット：1回目ジベ処理10日後～2回目ジベ処理の間

イ 方法

摘粒バサミまたは指で、内向き果、障害果、小粒果（ショットベリー）を中心に摘粒する。

指で行う場合は、軽くつまんで、ひねる感じで行う。（早期実施でハサミに比べ1/3程度に省力化）

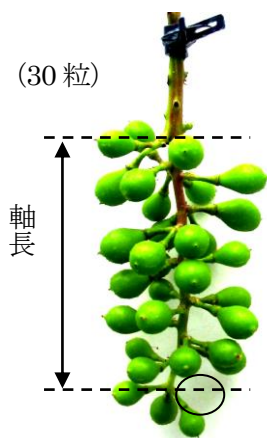
この時期は、果梗が折れやすいため、指で摘粒が可能。
(P.2の図2参照)

図1

「ナガノパープル」の摘粒例 (30粒)

「シャインマスカット」は
35～40粒

1回目ジベレリン処理10日後に摘粒したもの。下段右側の隙間(○印部分)程度なら果粒肥大に伴って埋まる。下段の着粒が多くならないように注意。



最上段 横～やや上向きの果粒を残す

1段に3～4粒×4段

シャインマスカットは1段に4～5粒×4段

中段 横向きの果粒を残す

1段に2粒(パープルは3粒にしない)×6～7段

シャインマスカットは1段に2～3粒

下段 粒が肥大したら互いに密着するよう配置

1段に1粒×3～4段

*ナガノパープルは中段に2粒までとする。1段に3粒つけた支梗は裂果しやすくなるので注意する。

(4) 摘粒の留意点

①仕上げの摘粒のつもりで実施する

↓
2回目ジベ処理後、速やかに袋掛けができるつもりで。
(晩腐病対策、果面汚染防止)

②「ナガノパープル」の裂果防止

やや強めの樹勢で、小さくつくって早く成熟。
裂果する樹は環状剥皮(満開30～35日後)の検討
(満開期の新梢第4節と5節の節間径10mm以上は裂果注意)

③「シャインマスカット」は大房にしない

着粒過多の大房では上部と下部の熟度が揃わず、品質低下の原因に。小粒多着粒の房にならないようにする。

図2 指による摘粒

果梗が柔らかい2回目ジベレリン処理前に、上向き果・内向き果などを中心に指で摘粒する。ハサミで行うより、1/3くらいの省力化になる。



3 ジベレリン処理

(1) ジベレリン2回処理の2回目(果房浸漬処理)

ア 時期: 満開10～15日後に果房浸漬処理 ※大きさを確認! (果粒横径8～9mmが適期)

2回目のジベレリン処理は1回で済ませる様にする。

イ 処理方法(ナガノパープル、シャインマスカット、無核巨峰、ピオーネ、クイーンニーナ共通)

薬剤名	使用濃度	使用目的	備考
ジベレリン	25ppm	果粒肥大促進	1つの房に対し、果房浸漬処理1回 (降雨等による再処理は1回まで)

※25ppm=水2リットルにジベレリン錠剤2錠

ウ 留意点

- ①処理時期が早すぎると肥大が劣り、遅すぎるとブルームが溶脱する。
- ②ナガノパープルの裂果発生園では2回目の処理が遅れない様にする。
- ③時間帯は午前中がよい。午後になっての処理は避ける(午後は夕立に遭う可能性が高い)。
- ④サビ防止のため、処理後は必ず房を振って確実に水滴を落とす。

(2) 降雨等による再処理・・・現地事例では処理後3時間降雨がなければ、再処理の必要はない。

この資料は令和元年6月1日現在の農薬登録状況をもとに作成しました。
農薬の使用に当たっては、最新の登録内容を確認のうえ使用しましょう。

4 摘房

- (1) 時期は、2回目ジベレリン処理前（予備摘粒前、概ね満開後5～10日）。
- (2) 着粒数の少ない房、奇形房、生育遅れの房、軸や粒の色の薄い房、弱い新梢（1 m以下）の房を摘房する。
- (3) 目標房数にできるだけ近づける。最終房数は袋の枚数で確認する。
ナガノパープル、クイーンニーナの短梢栽培は主枝長1 mあたり両側で6房（2,400 房/10a）
他の品種の短梢栽培は主枝長1 mあたり両側で7房（2,800 房/10a）が目安となる。